

地域との協働によるダム周辺利活用の取り組み

浅川ダムでは、地元浅川地区の皆様方との協働により、ダム周辺の利活用を図る取り組みを行っています。

平成30年に浅川地区、長野市及び県(浅川改良事務所)で構成する「浅川ダム利活用懇談会」を設置し、定期的な会議の開催や、ダム天端への鯉のぼりの掲揚、貯水池内植栽(フジバカマ苑)、毎年7月の「浅川ダム祭り」の開催など、懇談会として様々なイベントを実施しています。

さらに、浅川地区の皆様方にはダム周辺の草刈りや清掃作業等の環境整備活動や、ダムを周遊する遊歩道を利用したウォーキングマップの作成・配布など、「親しまれる浅川ダム」を目指して積極的な活動を行っていただいています。

令和5年度には新たに、ダム残土処理場跡地に栽培したブドウを原材料にしたワインを浅川ダム内監査廊で試験的に貯蔵する取り組みも始めました。



貯水池内植栽
フジバカマ苑



フジバカマに寄るアサギマダラ



浅川ダム祭り



長野県 長野建設事務所 浅川改良事務所
〒380-0836 長野市南長野南県町686-1 (長野合同庁舎 南庁舎7F)
☎ 026-234-9548 FAX 026-234-9562
E-mail : asakawa@pref.nagano.lg.jp

信濃川水系一級河川浅川

シーティーアイイー

環境にやさしいCTIE浅川ダム



ダム天端への鯉のぼり掲揚(4～5月)

環境にやさしいCTIE浅川ダム情報はこちらへ

ホームページ <https://www.pref.nagano.lg.jp/asakawa/index.html>

X(旧Twitter) <https://twitter.com/O1asakawa>

QRコード

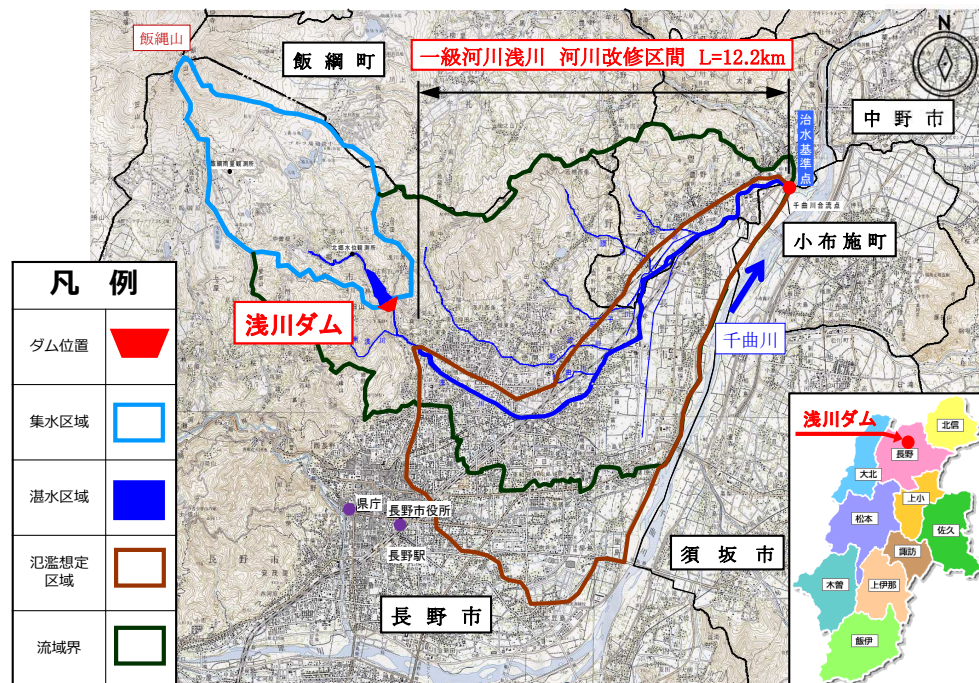


長野県 長野建設事務所 浅川改良事務所

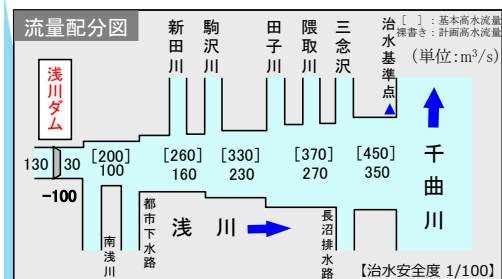
「CTIE」は、ネーミングライツ・パートナーである株式会社建設技術研究所(ダム本体を設計した会社)の英語表記に由来しています。

信濃川水系一級河川浅川は、標高約2千mの飯縄山を源とし、ダムがある上流域から中流域まで比高差約180mを延長約6kmの区間を急こう配で流れ下り、それより下流約7kmは平坦な地形を下流して一級河川千曲川に合流します。改修前の中流域では河床が周囲の地盤より高い天井川となっていたことなどから、河川の氾濫による水害がたびたび発生していました。このため、ダムと河川改修による治水対策を図ることとし、昭和52年(1977年)の河川改修着手から平成29年(2017年)のダムの完成まで約40年かけて、浅川本川の対策が完了しました。

浅川ダムは、洪水調節のみを目的とした「流水型ダム」です。
洪水時以外の平常時はダムに水が貯まることなく、上流から流れてきた水が、そのままの水量でダム内部の水路を通じ下流に流れます。浅川ダムは、以下の特徴があります。
○通常の河川と同様に、流水とともに土砂も一緒に流れ下る。
○常用洪水吐内に設置された魚道により、魚が遡上や降下しやすい。
○ダムに水を貯めないため、富栄養化などの水質悪化の影響がほとんど無い。



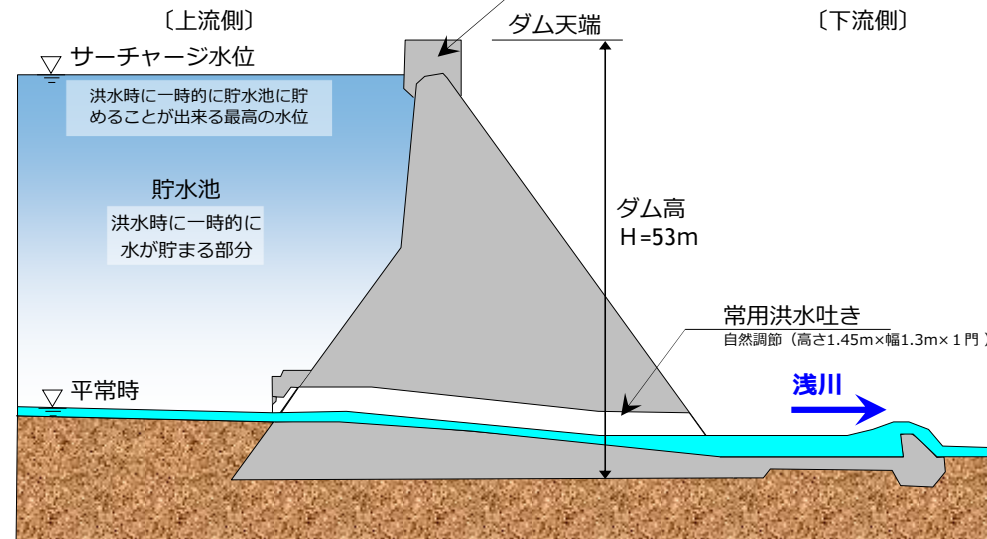
平常時の浅川ダム



ダム概要

- 目的 洪水調節
- 形式 重力式コンクリートダム
- ダム高 53m
- 堤頂長 165m
- 堤体積 14万3千m³
- 総貯水容量 110万m³
- 洪水調節方式
 - ◇常用洪水吐き 自然調節 1門
 - ◇非常用洪水吐き 自由越流 6門
- 治水安全度 1/100

ダム標準断面図



試験洪水時(平成29年1月)にサージージ水位まで貯水した状況